

出向く宮農レポート

～いちごの防除について～



北部宮農センター 長久手地区担当
村瀬 淳

長久手市で今年からいちご狩り園を始めた柴田さんのハウスに、生育確認と防除相談で訪問しました。

今回は、いちごの防除でポイントとなる「アブラムシ類」、「ハダニ」、「うどんこ病」について確認しました。

今回それぞれ被害はありませんでしたが、いちご狩りが始まってからはできるだけ防除の回数を減らしたいとの希望のため、12月中の予防的防除を指導するとともに、防除が必要な場合に備え、収穫前日まで使用可能な農薬を紹介しました。



▲加害の跡や病変がないか、葉裏も果房も確認します。

アブラムシ類

植物を吸汁し、生育を阻害します。また、ウイルスを媒介し、病気を引き起こす原因になる厄介な害虫です。繁殖力が強く、発見前の予防的防除や初期防除が重要です。

対策

ベネビアOD 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内

ハダニ

0.3～0.5mmほどの小さなクモの仲間です。葉裏に寄生し、葉を吸汁し、加害部分の葉はカスリ状の斑点が見られます。繁殖力が強く、一度増えると減らすことが困難なため、発見前の予防的防除や初期防除が重要です。農薬に対する抵抗性がつきやすい為、系統を変えたローテーション防除が効果を持続させるポイントです。



対策

スターマイトフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 系統25A
マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 系統20D

うどんこ病

葉や実に糸状菌という菌が原因の白い粉のような病変が表れます。植物から養分を吸収するため、生育が悪くなります。一番の被害は果実に出た場合であり、発病した果実は商品価値がなくなってしまう。露地栽培の場合は発生しにくいといわれていますが、トンネル栽培を行うと発生しやすくなります。

対策

ベルコート水和剤 4,000倍 収穫前日まで 5回以内
シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内

今回紹介した農薬は露地栽培のいちごでも使用できますので、暖かくなり病害虫が発生しやすい時期に参考にしてください。店頭在庫がない場合は取り寄せも可能です。